

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年9月号

# 森のおくりもの 9

NO.396 The Gift from Woods

キツネノハナガサ (ハラタケ科)



去年の9月は残暑が厳しく前年の8月並みの気温でしたが、今年もまだまだ日傘は手放せそうにありません。街中より風が涼しい自然観察の森の秋の楽しみの一つに、コオロギなどの秋の鳴く虫があります。聞こえてくる鳴き声に耳を傾けるとそれぞれ特徴がありますので、鳴いている虫に興味がありましたら、ガイドウォークに参加してみてもはいかがでしょうか。 【館長：佐藤由美】

## 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

### 『運否天賦（うんぷてんぷ）』

寄生バチの一種のコマユバチの仲間のもと思われる小さな繭の集まりを見つけました。寄生バチというのは、ハチ目昆虫のうち、幼虫が寄生生活を行う種類を指す総称です。蝶の幼虫を飼育したことがある人は、蛹から蝶ではなくて蜂が出て来ることや幼虫に繭ができたのを見た経験があるかもしれません。小さな繭の造形に見入っていると、一匹の小さな蜂が現れました。羽化して繭から出て来たのかと思って観察していたら、なんと針を繭にさしたのです。寄生バチの繭に寄生する寄生バチがいる！と驚いたのですが、調べると寄生バチ自身も多種の寄生バチによって寄生されることを知りました。

寄生バチはなんて残酷で恐ろしい生きものなのだろうと思っていましたが、寄生している間にその幼虫が鳥などに食べられてしまうこともあるだろうし、寄生する相手が絶えてしまったら子孫を残すことができなくなるし、自身も寄生されてしまう恐れもあり、寄生バチもうかうかしていると無事に羽化できないなんて、運がよくなければ生き残るのは大変なのだと同情しました。

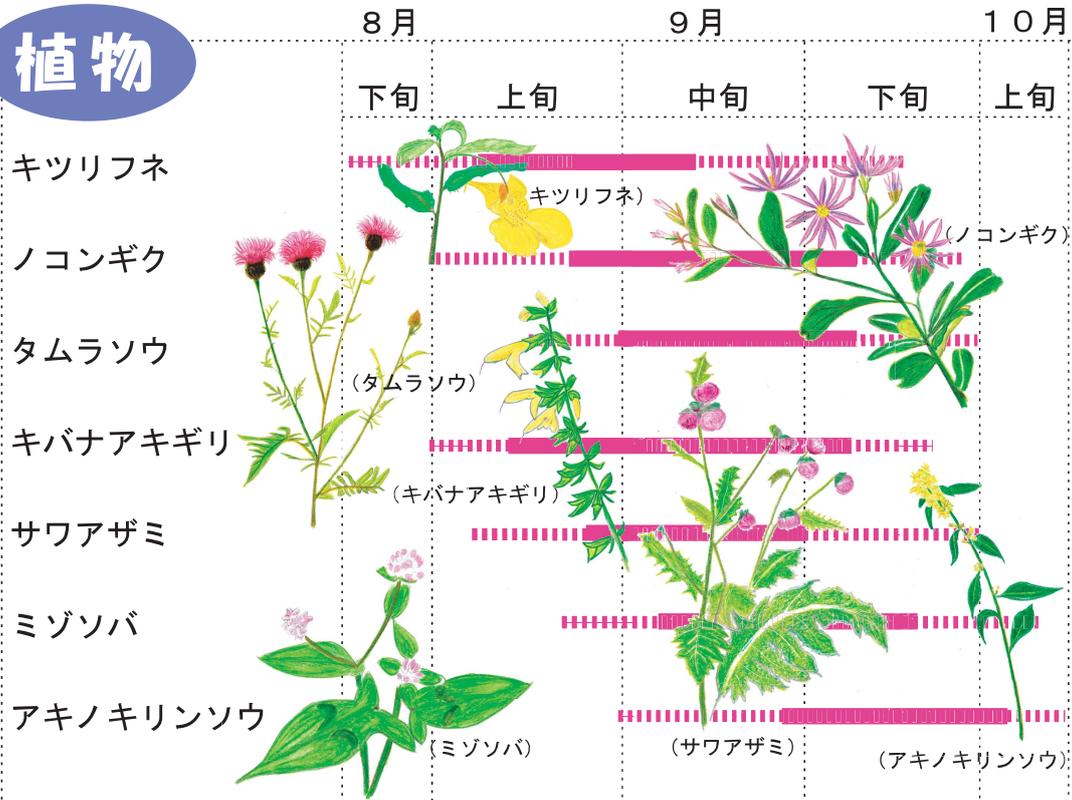
「運否天賦」という言葉があります。「運の良し悪しは天が決めること。運を天に任せること」という意味です。寄生は様々な工夫があり、とてもすごいシステムなのですが、他の生き物と同様に自然の中で生きていくのは厳しく、最後は運任せなところがあると感じました。また、恐竜がいる頃の昔、木の幹の中で植物組織を食べるハチの幼虫が、たまたま出くわした昆虫の幼虫にかじりついてしまったらしく、そんな偶然が寄生の始まりといわれているようです。運任せの生き方は昔からなのですね。

調べていて興味深かったのは、植物にとって蝶や蛾の幼虫は大敵なので、植物が寄生バチを呼んでいるという説がありました。寄生される相手にとっては恐ろしい存在ですが、植物にとっては救世主だし生態系のバランスをとるために大事な役割を持つ必要な存在には違いありません。【レンジャー：新田隆一】

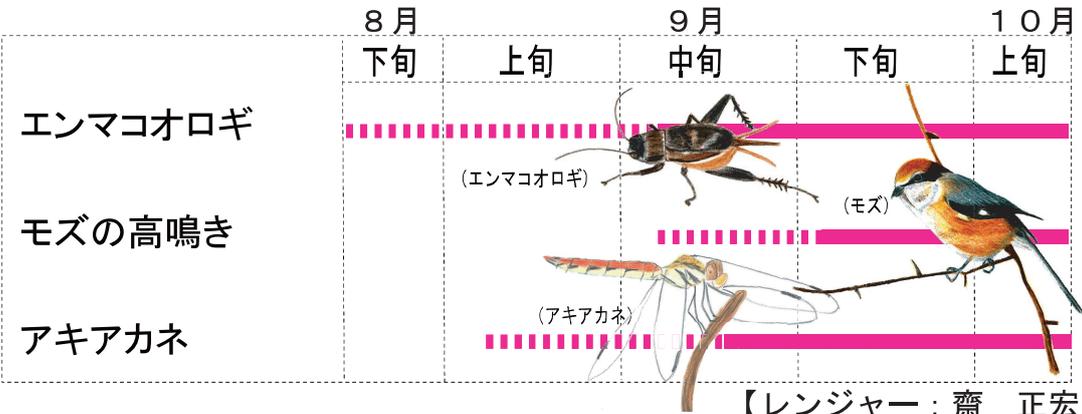


# 9月の生物ごよみ

## 植物



- 8月1日 宮城県を含む東北南部の梅雨開けが発表された。
- 8月2日 センター内のコナラでカブトムシを見つける。夏本番の様子。
- 8月9日 みはらしの道でハイロチョッキリに切り取られたドングリの付いた小枝がたくさん落ちていた。
- 8月16日 センターで展示のため飼育しているスズムシが鳴きはじめた。
- 8月21日 今までの夏の暑さから涼しい風が変わる。秋の気配を感じる。
- 8月28日 であいの道でホツツジが咲き始めた。



【レンジャー：齋 正宏】

# 森の「あれこれ」



## 「花が動いた！！！」



キバナアキギリの花にトマルハナバチがやって来ました。ハチはもちろん花の蜜と花粉が目的。そして花は他のキバナアキギリへハチに花粉を運んでもらうことが目的ですがそのしくみはとてもシンプルで、思わず笑ってしまうほど巧妙です。

花の奥には見せかけの花粉が、そしてその奥には蜜があります。ハチが蜜を求めて（それとも見せかけの花粉にひかれて？）花の奥に体を押し込むと、おしべが押され連動した入口上部の一对のおしべが下がってハチの体に花粉をペタリ。まるでシーソーの片方を上げて反対側が下がるような感じ。花が自分で動くわけではないのに、まるで何かの意思があるかのようです。

花粉を体につけ別のキバナアキギリの花のめしべと接触して受粉が行われるのでしょう。この花と虫の関係は、おそらく人間が現れるずっと昔から行われてきたのでしょうか。

また笑って“すごい”と口にしてしまいます。

【レンジャー：木田秀幸】



# 森は生きている

まだまだ暑い日が続いております、ここ観察の森では毎日いろんな風景が見られますが、立ち止まらないと見えないものもあります、よーく目を凝らすと面白いものが見えますので、その一部分を紹介したいと思います。



①藪の中に白のアイリングがかわいい、仲良しメジロの兄弟？ ②テントウムシではありません、アカイトトリノフンダマシというクモの仲間 ③竹の筒に自分の卵と幼虫のエサ（麻酔をかけたイモムシ）を封印し、泥で蓋をするオオフタオビドロバチ ④地面と同じ？ アズマヒキガエル ⑤どっちが頭？左です、ホシヒメホウジャクの幼虫。



森を歩いていると確かに、木々のざわめき、鳥などの鳴き声など五感で感じるものも多いのですが、一度立ち止まってみると今まで気付かなかったものを感じることができます、みなさんも毎日の生活は忙しいかもしれませんが、一度足を止めてみてはいかがでしょうか？

【レンジャー 菅井 潤】

# 9月のイベント & お知らせ

## ◆『親子むしむし探偵団(秋の虫編)』

・散策路を歩きながら昆虫を探し、みつけた昆虫を触ったり特徴を調べたりして観察します。

【日 時】10月5日(土) 10:00~11:30

【対 象】小学生以上の子どもとその保護者 15名

【持ち物】飲物、帽子、かっぱ、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】9月6日(金)午前9時から電話で受付〔先着〕

## ●スズムシを展示しています

自然観察センターの展示室で、仙台市の「市の虫」になっているスズムシを飼育して展示しています。

自然の中ではスズムシの鳴き声は聞けなくなっていました。風流な虫の音を聴きに自然観察センターにお越しください。



**毎週日曜は『ガイドウォーク』の日!**

開催日: **1日, 8日, 15日, 22日, 29日**

開催時間: **10:00~11:30, 13:30~15:00**

**※4月~11月は午前と午後実施します**

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

**9月の休館日**

2日(月)、9日(月)、  
17日(火)、24日(火)  
30日(月) ※月曜日が祝祭日の場合翌日が休館

**宮城交通バスの場合**

① 仙台駅 乗車時間 約40分  
② 長町駅東口 乗車時間 約30分  
③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」)  
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

**お車の場合**

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

**観察の森へのアクセス**

太白団地  
公営アパート前  
SEIYU  
自然観察センター  
太白第二橋 (行き止まりの橋)  
山田交差点  
名取川  
鉤取イオンスーパーセンター  
新仙台郵便局  
鉤取ヨークタウン

自然観察の森の最新情報、「森のおくりもの」バックナンバーはWebで!

2024年9月号  
発行: (公財)仙台市公園緑地協会  
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター  
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63  
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「杜のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>